

2010年センター試験「倫理」の傾向と対策

愛知県立岡崎高等学校 兼松正人

1 はじめに

センター試験「倫理」に十分に対応するには、いかなる授業展開すればよいか？「2010年大学入試センター試験」を分析し、授業展開の指針を考察したい。その際、知識理解の問題と読解思考の問題に分け実際の設問例から対応を検討する。

ところで、良し悪しはともかく「大学入試センター試験」が、高等学校の授業内容に及ぼす影響は大きい。現状の授業改造(改善)のパイロット(水先案内)的役割をも担い、教えるべき知識や理解、そして、いかなる倫理的思考力の育成を想定しているかを追究したい。

2 「センター倫理」の量的な傾向分析

一般的には、次のような量的な分析がなされる。大問が5つで、小問(設問)が37は、ほぼ例年通りであり、出題内容も第1問は「青年期の心理(3問)」、第2問は「思想の源流(9問)」、第3問は「日本の思想(9問)」、第4問は「西洋近代思想(9問)」、第5問は「現代社会思想(7問)」であり、教科書レベル程度である。新傾向としては、第1問の間1「ステレオタイプ的な見方」で選択肢すべてが正しいという正確な理解と倫理観が求められる出題があった。また、第2問の間6「ムハンマドの思想が旧来の多神教と対立した要因」を問うようにイスラム教は出題率が依然として高いと言える。第3問の間4「栄西の教え」や問5「藤原惺窩の思想的展開」は、高等学校で扱うべき授業内容に影響を与えると思われる。同様に第4問の間4「ヒュームの懐疑論の説明」も授業内容に影響を与える出題である。一方、問6「20世紀以降、新たに生じてきた倫理的問題」で、②の「生態系に配慮せず自然を利用した帰結として野生生物種の減少」を不適切として正解とする作問はむしろ悪問といえるのではないか?! 第5問の間7「本文に合致する記述」を「Fさん、Sさん」の政治思想から選ぶのはおもしろい。

このような量的な分析をさらに詳しくしていても教師たちにとって、日々展開する授業を改造(改善)するにはあまり役立たない。わたしには不満であった。

3 「センター倫理」の質的な傾向分析

「2010年大学入試センター試験」を質的に分析したい。知識理解力を問う問題と読解思考力を問う問題に大別し、後者をさらに、「(1)グラフや図表を読み取る思考力」「(2)いわゆる国語力で問題を解く読解力」「(3)リード文の要旨を考える読解力」「(4)資料文を手がかりとする思考力」に質的に分けて考察していく。

異論は多々あると思われ、また明確には分けられない問題もあるが、私見では、全37問のうち「知識理解力を問う問題」が25問あり、「読解思考力を問う問題」が12問である。また、後者の全12問のうち「(1)グラフや図表を読み取る思考力」が2問、「(2)いわゆる国語力で問題を解く読解力」が2問、「(3)リード文の要旨を考える読解力」が4問、そして「(4)資料文を手がかりとする思考力」が4問である。

最初に、「知識理解力を問う問題」の良問を具体例として質的分析をする。高校『倫理』は、学問である以上は学び習得すべき知識はかなりある。問題は、その知識をいかに授業で展開し、学び習得することが求められているかである。25問中の2問を具体例として考察してみたい。

4 知識理解力を問う問題

第2問の間3「ストア派の人々が説いた「自然に従って生きよ」とは何を意味するのか。最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ」は、知識を問う問題であるが、言葉の意味を総合的に理解しているかを問う良問であり、選択に迷うと思われる。選択肢は次の通りである。

- ① 文明化された都市においては理性的な判断を惑わすものが多いため、自然の中で魂の平安を求めて生きよ、という意味
- ② 感情に左右されやすい人間の理性を離れ、自然を貫く理法に従うことにより、心の平安を得て生きよ、という意味
- ③ 人間の理性を正しく働かせ、自然を貫く理法と一致することで、心を乱されることなく生きよ、という意味

④ 人間の理性を頼みとして努力をするのではなく、自然が与えるもので満足することを覚えよ、という意味

この問題は、たんなる「自然に従って生きよ」をストア派のモットーとして記憶する学習(授業)だけでは解けない良問である。③が正解であり、高校生たちに個人主義ではあるが「個人として幸せな生き方」に迫る倫理的問題といえる。

また、第3問の間3「法然が天台宗など旧仏教から迫害を受けた理由として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ」は、理解を問う問題であるが、法然の説く「専修念仏」を深く理解しているかを問う良問である。選択肢は次の通りである。

- ① 浄土に往生する手立てとして、他の様々な修行法によらずもっぱら念仏を称えることを説いたため。
- ② 旧仏教を改革しつつ、悟りを求める心を軽視する立場を批判して、民衆教化に努めたため。
- ③ 釈迦の没後、次第に人心が乱れ、仏教が衰え、世がすさむとする思想を社会に広めたため。
- ④ すべての生のある存在を救おうと願い、その願いが成就しない間はけっして成仏しないと誓ったため。

この問題は、たんなる「専修念仏」の意味を記憶する学習(授業)だけでは解けない良問である。①が正解であり、③の末法思想や④の阿弥陀の本願も関連知識であり迷うこともあろうが、法然の「専修念仏」の革新性に迫る問題といえる。

また、第4問の間3「ベーコンが批判した四つのイドラの記述として最も適当なものを次①～④のうちから一つ選べ」は、まったく同じ形式で第2問の間2「ブッダの教えをまとめた四諦」について出題されている。知識を問う問題ではあるが、形式としておもしろい。

このような「知識理解力を問う問題」が37問中25問と多く、教科書を用いた学問としての高校『倫理』学習(授業)の中核である。けれども、その学習(授業)への指針は具体例とした設問からも推察できる。いわゆる「倫理的な知識理解」の方向性は、深い意義や関連性(構造)を理解することである。

5 読解思考力を問う問題

先に分類したように、読解理解力とは「(1) グラフや

図表を読み取る思考力」「(2) いわゆる国語力で問題を解く読解力」「(3) リード文の要旨を考える読解力」「(4) 資料文を手がかりとする思考力」に分けられる。このうち(1)と(3)の試験会場ではじめて出会うセンター試験「倫理」のグラフの読み取りやリード文の要旨を考える読解力(国語力)は、多くの問題で慣れて時間短縮に努めるのがよい。われわれ教師が、実際の授業展開で意識すべきは、「(2) いわゆる国語力で問題を解く読解力」と「(4) 資料文を手がかりとする思考力」とである。前者は、単なる国語力だけでなく倫理的思考力を培う読解力であり、2問中の1問を具体例として考察してみたい。後者は、より典型的に倫理的思考力を目指しており、4問中の2問を具体例として考察して授業改造(改善)の指針としたい。

(1) いわゆる国語力で問題を解く読解力

第1問の間1「ステレオタイプ的な見方による発言を○、ステレオタイプ的な見方による発言ではないものを×」とする理解に基づいた倫理的思考力(倫理的応用力)を問う良問である。選択肢は次の通りである。

- ア 「やせた体型をしている人というのは、物事に対して多かれ少なかれ神経質な意識と行動パターンをもっている。」
- イ 「女性はもともと他者と密接な関係をもちたいと考えているので、子どもや人の世話をするような仕事に適性がある。」
- ウ 「フリーターやニートと呼ばれる人たちのなかにも様々な人がいるが、共通する傾向として多かれ少なかれ甘えがある。」
- エ 「最近の若者は、中高年の人たちが若かったころに比べて、我慢や辛抱というものができなくなっている。」

リード文には、ステレオタイプを「他者への関心や関わりあいをもとうとしない」と、その見方は、個人への配慮を欠いた画一的なものとなりがちである。このような、人々を画一的に捉える見方」と定義し、また「他方でステレオタイプは、人々がもつ個性を軽視したり、他の集団の人たちを排斥したりすることにつながる。自分たちとは、言動、考え方、世代などが異なる人たちを『うざい』などと決めつけて遠ざけてしまうことも、ステレオタイプの一形

態と言えるだろう」と、現代の倫理的問題として具体的な場面での人間としての在り方生き方を問うている。正解は、アからエまですべて○である。高校生たちは問題を解くことによって、自分の心に潜むステレオタイプ的な見方を自覚するであろう。そして、すべてがステレオタイプ的な見方であるかどうかを考えてみるのが倫理的思考力として想定されている。

このように、教科書や資料集により学んだ知識理解を、実際の生活の場面に翻訳し応用することが、倫理的思考力の重要な指針である。

(2) 資料文を手がかりとする思考力

第3問の問2「次の文章は、観音菩薩が夢のなかで親鸞に告げたとされる言葉である。…親鸞の信仰の特徴としてどのようなことが言えるだろうか。最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ」は、倫理的思考力を問う良問である。資料文と選択肢は次の通りである。

あなたが宿業あってももしも女性と結ばれるならば、私とその女性となってあなたと結ばれよう。一生の間あなたを尊いものとして照らし、臨終においてはあなたを導いて極楽浄土に生まれさせよう。

(覚如『御伝鈔』による)

① 親鸞は、この世で恵信尼を妻としたことで観音菩薩にも結び付き、僧でも俗でもない立場から生活に根差した教えとして他力信仰を説き広めた。

② 親鸞は、この世で恵信尼を妻としたことによる罪業を贖うために観音菩薩にも皈依し、そのことを通して生涯にわたって他力信仰を説き広めた。

③ 親鸞は、異性に対する煩悩に苦しんだが、観音菩薩に皈依することで煩悩を抑えることができ、人々の苦しみに心を寄せて他力信仰を説き広めた。

④ 親鸞は、異性に対する煩悩に苦しんだが、観音菩薩の智慧と一体化することで克服し、生まれ変わりの思想として他力信仰を説き広めた。

悪人正機の教えを深く理解して、日本(親鸞)独自の逆説的な倫理的思考を問う良問である。選択肢の文章も工夫されて西洋的倫理観では解けない。このような倫理的思考力は授業展開の重要な指針となる。正解は①である。

また、第5問の問6「J. S. ミルの次の文章を読み、そこに述べられている考えに即した意見として最も適当なものを次①～④のうちから一つ選べ」も倫理的思考力を問う良問である。資料文と選択肢は次の通りである。

文明社会の成員に対し、彼の意志に反して、正当に権力を行使し得る唯一の目的は、他人に対する危害の防止である。……そうする方が彼のためによいだろうとか、彼をもっと幸せにするだろうとか、他の人々の意見によれば、そうすることが賢明であり正しくさえあるからといって、彼になんらかの行動や抑制を強制することは、正当であり得ない。

(J. S. ミル『自由論』)

① 自動車のシートベルトの着用は、事故が起きたときに本人を守ることになるから、強制してよい。

② 健康な若者がお年寄りに席を譲ることは、誰もが認める正しい行為だから、強制してよい。

③ 飛行機の離着陸時に携帯電話を使うことは、電子機器に影響を与える可能性があるから、禁止すべきだ。

④ クローン人間をつくることは、国際的にも国内的にも世論の強い反対があるから、禁止すべきだ。

J. S. ミルの「自由論」を、現代の具体的事例に翻訳して問う良問である。選択基準が明確なので、迷うほどではない問題ではあるが、現代社会に生きる高校生が日々直面している倫理的問題に翻訳して倫理的思考を問うことは大切である。正解は、③であり、危害を加えない行為は合法化されるべきだというJ. S. ミルの「自由論」の原理(=「危害の原理」)から判断する。今日の倫理的思考力を考える指針となる設問である。

6 おわりに

授業展開するうえで役に立つセンター試験「倫理」の分析を試みたつもりである。それはいかなる知識理解が問われ、いかなる倫理的思考力を問うているかの質的分析である。機会があれば、さらなる授業改造(改善)への具体的提言をセンター試験「倫理」と対比(あるいは利用)した授業展開例として示してみたい。